

市町の生産資材高騰対策に謝意

16市町訪問 生産者支援に感謝



当JAは農業生産資材の価格高騰を受け、昨年6月に管内市町に「生産資材価格高騰にかかる緊急対策」を要請しました。これに応え16市町が支援策を展開し、支援金の給付などを行いました。

鈴木正三組合長をはじめ常勤役員や担当職員が2月に16市町を訪問し、首長に謝意を伝えました。管内約3万6,000人の組合員からも感謝の声が寄せられ、生産者の営農継続につながったことを報告しました。



伊豆の国市の山下正行市長にお礼状を手渡す鈴木組合長(右)

営農アドバイザー決起集会

営農指導事業の強化に向け意思統一



当JAは営農アドバイザーの取り組み強化により、産地振興や農家組合員の農業所得向上を図っています。

4月7日には、初の営農アドバイザー決起集会を富士地区本部ホワイトパレスで開催しました。営農アドバイザー71人と常勤役員、担当部署職員など計94人が参加。活動の目的や方向性を確認したほか、トップ営農指導員6人と、3月10日の「営農アドバイザー1人1課題発表報告会」で優秀な成績を収めた3人が取り組み事項を報告しました。

営農アドバイザーらは地区を越えた交流により、広い視野を持って産地振興に取り組んでいくことを確認し、意思統一を図りました。

今後は、スマート農業導入による生産性の向上や無料職業紹介所「あぐりキュービッド」の活用、生産資材助成制度の利用促進などに取り組んでいきます。

令和5年度入組式開く

35人が入組 新戦力になれるよう業務に精進



当JA入組式を4月3日、沼津市の本店で開きました。新入職員35人が鈴木正三組合長の訓示を胸に刻み、職員としての第一歩を踏み出しました。

鈴木組合長は、社会人・JA職員として義務を果たし信頼を得ることなど心構えを示し、新入職員を激励しました。代表して望月楽斗職員が辞令を受け取り、「新戦力になれるよう業務に精進します」と決意を表明しました。



代表で辞令を受け取る望月職員(右)



6人のトップ営農指導員の紹介と活動報告



1人1課題発表報告会(3月10日開催)で最優秀賞の池谷奈桜子職員(中央)と優秀賞の田中達也職員(左)・宮島快職員(右)



FUJIZUMA ふじ伊豆トピックス TOPICS

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。
各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです

管内生産者が品評会上位入賞

畜産やシタケ品評会で受賞



第54回静岡県ブラックアンドホワイトショウが3月11日に長泉町で、第42回静岡県乾椎茸箱物品評会が4月11日に伊豆市で行われ、それぞれ管内生産者の方々が最高位など多数入賞されました。4月14日・15日には第10回全日本ブラックアンドホワイトショウ・2023セントラルジャパンホルスタインショウが御殿場市で開かれ、当JA管内生産者から4頭が出品されました。各品評会の上位入賞者は次の皆さまです。

敬称略

■第54回静岡県ブラックアンドホワイトショウ
未経産牛・第5部(21カ月以上24カ月未満)

1位 岩城 正盛(三島函南)

経産牛・第6部(2オジュニア 2オ6カ月未満)

1位 高橋 実徳(伊豆の国)

■第42回静岡県乾椎茸箱物品評会

金1席・林野庁長官賞 小柳出 勝「花冬菇」(伊豆の国)

金2席・静岡県知事賞 星谷 彦衛「上冬菇」(伊豆の国)

金3席 星谷 彦衛「中葉厚肉」(伊豆の国)

金4席 秋津 和昌「大葉中肉」(伊豆の国)

金5席 石渡 昭彦「中葉中肉」(伊豆の国)

金6席 三枝 廣次「大葉厚肉」(伊豆の国)



未経産牛・第5部1位の岩城さんご家族



銘柄ごとと形状などを審査

金1席・林野庁長官賞の小柳出さんのシタケ

新茶シーズン到来！過去最も早い初取引

管内3地区から茶上場



取引成立の「手合い」

なんすん・富士・富士宮の3地区は4月13日、(株)静岡茶市場で開かれた「静岡茶市場新茶初取引」に各地区特色のある良質な荒茶を上場しました。

富士宮茶業委員会の「富士宮の手もみ茶」が1キロ111万1,111円の値を付けたほか、富士地区となんすん地区の荒茶も注目を集め、高値で取引されました。

3月の県内の気温は平年より高く茶の生育が早まり、同市場開設以来最も早い初取引となりました。

ドローンで茶の肥料散布実演会

スマート農業導入で労力軽減と作業効率化図る



富士宮地区営農販売課(現 営農課)と富士宮荒茶共販委員会は3月15日、同委員の茶園でドローンによる肥料散布実演会を開きました。

関係者15人が出席し、合同会社ソラモの協力でDJI社製「AGRAS T30」を使用し、40アールのほ場に400キロを施肥。動力散布機に比べて作業時間が従来より1.5時間短縮となり、参加者からは「体力面や人手不足の課題解決につながる」と好評でした。



ドローン散布の実演により作業時間の短縮を確認

タマネギ選別機を導入

負担軽減で生産量拡大へ



なんすん玉葱部会は4月25日、大平支店でタマネギ選別の労力軽減と規格統一を目的として購入した選別機の試運転を行いました。

同機はJAの「あぐりチャレンジ事業」で導入。選別などの作業を一貫して行えるため、従来の手作業と比べて負担軽減と規格統一が期待できます。

笹原文彦部会長は「生産量を増やし多くの方に地元で採れた良質なタマネギを届けたい」と話しました。



タマネギ選別機を試運転する部会員とJA職員

ハヤシソース「伊豆伊東ハヤシ」販売

地元高校生がJAやスーパー、飲食店と協力して開発



伊東市にある県立伊豆伊東高校2年生が、地元特産クッキングトマト「アイランドルビー」や「ダイダイ」を使った新商品・レトルトのハヤシソース「伊豆伊東ハヤシ」を当JAやスーパーなどと協力して開発しました。

4月15日には「いで湯っこ市場」で先行販売を行い、同生徒たちが商品をPR。開発に協力したスーパー「田子重」や地元飲食店「ごはん酒菜 そのに」でも数量限定で販売され、人気を呼びました。



「いで湯っこ市場」で生徒たちが商品をPRし410個を販売

ハウスみかん生育順調

伊豆太陽地区ハウスみかん部会が園地巡回



伊豆太陽地区では4月中旬からハウスみかんの出荷シーズンを迎え、8月中旬まで県内市場を中心に出荷しています。

3月24日には、伊豆太陽地区ハウスみかん部会が東伊豆町と河津町の園地巡回を行いました。部会員らは果実のつき具合や大きさなどの生育状況、温度や水、病害虫などの管理状況を確認。互いの生育や摘果状況など活発な情報交換を行いました。



部会員やJA職員が園地巡回で生育状況を確認

高品質なイチゴを市場へ

富士地区苺部会が暖候期目ぞろえ会



富士地区苺部会では、6月初旬までイチゴの出荷が続いています。3月8日には暖候期の目ぞろえ会を開き、JA職員が出荷時の留意点などを説明しました。

鈴木晴幸会長は「高品質なイチゴを市場に出すため早朝に収穫し、基準を守って出荷すること」と呼びかけました。部会員らは品種ごとに実物のイチゴを確認しながら規格と比べ、品質の統一を図りました。今期は20万パックの出荷を見込んでいます。



実物を見て規格を確認する苺部会員とJA職員

漬物製造の営業許可取得説明会開く

水かけ菜漬けの生産者など149人が出席



御殿場地区販売課とファーマーズ御殿場は4月10日と14日、御殿場地区本部で御殿場保健所の担当者を講師に招き、生産者向けの漬物製造の営業許可取得にかかる説明会を開きました。

令和3年の改正食品衛生法により、漬物の製造が許可制になり、令和6年5月末までが経過措置期間です。施設改修が必要となる場合もあり、JAIは今後、御殿場市・小山町と対策を検討していく予定です。



漬物製造の営業許可取得について説明する保健所担当者

冷凍野菜で農業所得向上目指す

市場相場に左右されない農業経営に向けて



三島函南地区では農家組合員の農業所得向上を目指し、冷凍青果物の製造、流通の試験運用に力を入れています。

市場相場の低迷期に、JAが規格外品を含む原料を生産者から買い取り、冷凍。通年出荷を可能にし、高価格を維持して販売します。

今後は消費者の要望を参考に、商品改善や収益バランスの調整を進め、事業体制確立を目指します。



冷凍野菜で通年出荷を可能にし高価格を維持

ワサビ販売額前年比164%

伊豆の国わさび委員会が総会開く



伊豆の国わさび委員会は4月14日、令和4年度総会を修善寺営農経済センターで開きました。令和4年度は業務用需要の回復や海外輸出増などの好影響を受け、販売額は高い相場で推移し、前年比164%でした。

新たに委員長に就任した塩谷美博さん(伊豆市)は「JAや関係機関と協調し、世界農業遺産認定を活用した産地ブランドの見える化を図ると共に、市場との連携をさらに強化して有利販売につなげたい」と話しました。



事業報告や計画、役員改選など3議案を審議、承認